

2019.10.17
vol.80

シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

本日の上映作品 『終着駅』



10月17日 (木)

① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~

夫と子をアメリカに残しローマにやってきた一人の女性が、そこで恋に落ちたイタリア青年の懇願を振り切って去って行くまでを、“終着駅”に集う様々な人の人生を点描しながら物語る。淡々とした映像が昂まってラストの哀切は筆舌に尽し難いほど。物語の進行と上映時間が一致した実験的な側面も持つ。

監督：ヴィットリオ・デ・シーカ

出演：ジェニファー・ジョーンズ

モンゴメリー・クリフト

製作：1953年 アメリカ/イタリア

モノクロ 89分

『自転車泥棒』	ヴィットリオ・デ・シーカ/監督	アイ・ヴィー・シー	778.253
『シネマディクトJ』の映画散歩 イタリア・イギリス編	植草 甚一/著	晶文社	778.2
『モンゴメリー・クリフト』 エリザベス・テーラーの人生を狂わせた男	井上 義照/著	人間の科学新社	778.253
『女と男の名作シネマ』極上恋愛名画 100	立花 珠樹/著	言視舎	778.04
『トラウマ恋愛映画入門』	町山 智浩/著	集英社	778.04
『恋愛映画館』	小池 真理子/著	講談社	778.28
『映画果てしなきベスト・テン』	山田 宏一/著	草思社	778.04
『ヨーロッパ・映画の旅』	山村 謙一/著	弦書房	778.04
『恋愛映画小史』	佐藤 忠男/著	中日映画社	778.04
『イタリア映画を読む』 リアリズムとロマネスクの饗宴	柳沢 一博/著	フィルムアート社	778.237
『古き良き時代の外国映画』	本吉 瑠璃夫/著	文芸社	778.2

束の間の恋が迎えた“終着駅” K.M.

今回上映の『終着駅』（'53年）は、『風と共に去りぬ』（'39年）、『レベッカ』（'40年）、『第三の男』（'49年）などを手掛けたハリウッドの大物プロデューサー、デヴィッド・O・セルズニックが、デヴィッド・リーン監督の名作『逢びき』（'45年）に匹敵するメロドラマを作ろうと、『靴みがき』（'46年）と『自転車泥棒』（'48年）で相次いでアカデミー外国語映画賞を獲得し、脂の乗り切ったイタリアの巨匠ヴィットリオ・デ・シーカ監督を招いて製作した恋愛映画です。

新装間もないローマのテルミニ駅を舞台に、男と女の微妙に揺らめく情念と別れを、「劇中の進行時間と上映時間を同調させる」ことと、「オールロケーションで撮影する」というユニークな手法で描いたデ・シーカ監督の衝撃作は日本でも大ヒットしました。

脚本は『靴みがき』や『自転車泥棒』でもコンビを組んだ盟友のチェザーレ・サヴァッティーニ。主演女優は『聖処女』（'43年）でアカデミー主演女優賞を獲得し、当時セルズニックの妻であったジェニファー・ジョーンズ。主演男優は『陽のあたる場所』（'51年）、『地上より永遠に』（'53年）でアカデミー主演男優賞にノミネートされた実力派で、監督と役を選ぶことでも有名だったモンゴメリー・クリフト。

束の間の恋に激しく揺れる感情を理性で必死に抑える人妻を演じたジェニファー・ジョーンズは当時33才、イタリア人男性の外国人女性に対する積極的なアタック気質と青年の一途な情熱を的確に演じたモンゴメリー・クリフトは当時32才。この二人が名匠デ・シーカの許で迫真の演技を見せますが、この作品にはもう一つ大きな役割を果たした“主役”が存在します。この作品の舞台となったローマ・テルミニ駅です。

テルミニ駅が新装になったのは、この作品の企画が立ち上がった時期とほぼ同じ1950年。大理石が輝くガラス張りの真っ新なこの駅で、最終列車と始発の間の午前1時から早朝5時までを利用し、約750人のエキストラと電気技師たちを動員し、2ヵ月かけて、人生の縮図といわれる駅構内に行き交う人々と人生模様がオールロケで撮影されました。出札口で切符を買う

牧師の一団、構内をうろつく怪しげな中年男、具合が悪くなった妊婦とその夫、隊列を組んで歩く兵士から大統領まで！（笑）。いろいろな人物や集団がかざり気なく描かれているようですが、頭にすっかり血がのぼってしまった男と女の挙動を浮き立たせるとともに、それらの人生模様のいくつかに触れることによって二人の心理面にも少なからず影響を及ぼすように慎重に選択されているので注目下さい。

その他、この作品辛口の恋愛映画ではありますが、随所にデ・シーカ監督の慎重に計算された「救いの隠し味」が感じられます。いくつか紹介します。

- ①可愛いのが実にしっかりとした甥っ子の存在。実は彼が叔母さんを不倫の恋による破滅から救う決定的な役割を果たします。一つは叔母さんの旅行鞆と毛皮のコートを届けに来た時、瞬時にただならない状況を判断し、二人に別離を決断させるようブレーキをかける言葉と態度を投げかけた点。もう一つは取敢えず旅行鞆と毛皮のコートを二人に届けることができた点。その意味は→②
- ②繊細に組み立てられた鞆と毛皮の行方と手荷物預かり所でのチェックで判明する鞆の中身に注目。
- ③警察署長の粋で好意的な計らい。これがなければ間違いなく二人はドロ沼に・・・の筈。
- ④パリ行き列車の席が個室でも、ギューギュー詰め席でもなく、上品で賢明そうな初老の婦人との相乗りとなったこと。二人の会話が目に浮かびます。

最後に、全編を流れる哀愁を帯びたテーマ曲「ローマの秋」について。作曲はアレッシンドロ・チコニーニ。『靴みがき』で初めてデ・シーカと組んだチコニーニは、その後も『自転車泥棒』などデ・シーカ監督の映画音楽を数多く手がけました。彼は、デヴィット・リーン監督の『旅情』（'55年）の音楽も担当していますが、そのテーマ曲「サマータイム・イン・ヴェニス」は大ヒットしました。

9/19 『自由を我等に』の感想

・全くのコメディでしたね。人生の「泣き笑い」が面白可笑しく描かれていました。1931年に製作されたとのこと…。オートメーションで労働者が労働から解放され、ボーリング、トランプ、釣り、ダンスに明け暮れるという未来像があったのですね。でも今は、仕事の中身はより高度で精緻なものになったのでしょうか。あのように「天国」は訪れませんでした。時空を超えて、人生の見方、考え方の移り変わりを見せてもらいました。ありがとうございました

・音楽がコミカルでおもしろかった。モノクロがよかった。この、忙しくさわがしく色の多い時代。ちょっと疲れるが、今日久しぶりにすっきりしました。新しいさを感じた。

・本当の自由の価値は、不自由の辛さを知った者にこそ、わかるものかもしれない。だからといって、不自由の辛さを強制されるのはたまったものではない。不自由の最たるものは戦争だ。戦争を知らないことこそ、自由、平和の証だと思う。

・生きる虚しさや寂しさを感じさせる映画ですが、登場人物が妙に明るく元気なところに救いがあります。

・声、音楽、ドタバタがマッチして、違った意味で、上質ではないけど、よかった。

・内容があまりなく、つまらなかったです。現代映画の方が奥が深いカナ。

・最後のシーン、蓄音機はできたのかな？

・とにかく忙しかった。



P 駐車場のご案内

りぶら東駐車場2をご利用下さい



注意



上映中の携帯操作は、周りの方の迷惑になりますのでご遠慮下さい。また、観賞マナーを守り、終了後も明るくなるまで席を立たないようにお願いします。上映開始時間を過ぎての入場は、ご遠慮ください。

サロン・ド・シネマについて

ホールホワイエにて寄付金でお茶菓子の提供をしています。映画の上映前にご利用ください。但し、「夜の部」には開催しません。

りぶらホールにはヒアリングループが設置されています。補聴器を利用されている方は、Tモードに切り替えてください。

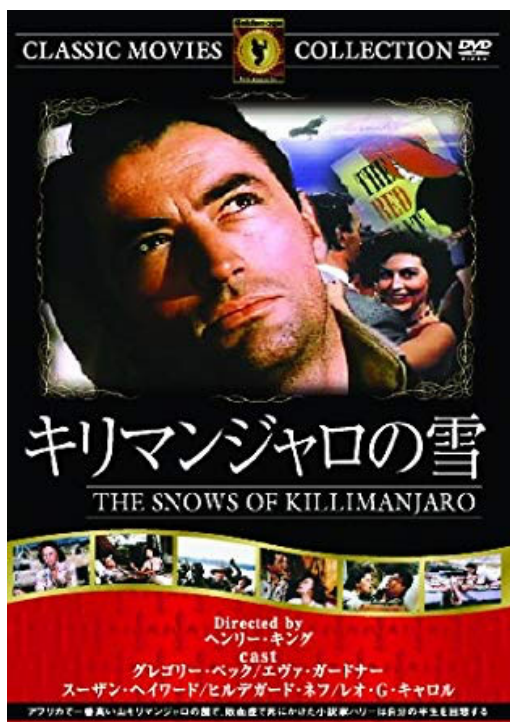


第 81 回上映会のご案内

キリマンジャロの雪

字幕上映

THE SNOWS OF KILLIMANJARO



11月28日(木)

① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~

アフリカの最高峰キリマンジャロの麓に、妻ヘレンを連れて狩猟に来ていた小説家ハリー・ストリートは、脚にうけた傷が壊疽になり、明日をも知れぬ命になった。瀕死の床でヘレンの看護をうけつつ、ハリーは自分が今まで歩んで来た波乱の人生を思い出していった。

監督：ヘンリー・キング

原作：アーネスト・ヘミングウェイ

出演：グレゴリー・ペック、エヴァ・ガードナー
スーザン・ヘイワード

製作：1952年 アメリカ モノクロ 114分

第 82 回 12月19日(木) 『ビューティフルメモリー』

2020年1月～3月ホール改修工事のため、
映画の上映会はございません。

2020年度の上映のご案内

第 83 回	4月16日(木)	上映作品は未定
第 84 回	5月21日(木)	上映作品は未定
第 85 回	6月25日(木)	上映作品は未定
第 86 回	8月20日(木)	上映作品は未定
第 87 回	9月17日(木)	上映作品は未定
第 88 回	10月15日(木)	上映作品は未定

上映前 BGM のタイトル

タラのテーマ (風と共に去りぬ)
黄色いリボン
第三の男
雨に唄えば
愛のロマンス (禁じられた遊び)
ジェルソミナ (道)
エデンの東
ケ・セラ・セラ (知りすぎている男)
ボギー大佐 (戦場にかかる橋)
荒野の七人
太陽がいっぱい
トウナイト (ウエストサイドストーリー)
ムーンリバー (ティファニーで朝食を)

上映開始時間を過ぎての入場は、ご遠慮ください。